

西濃農林事務所の普及活動状況（令和7年1月）

今月の重点活動

■きゅうり 海津胡瓜部会 第3回勉強会の開催

12月23日、JAにしみの海津胡瓜部会は海津中支店研修棟で第3回勉強会を開催した。農林事務所から、頻度・重要度の高い作業として灌水に着目し、日射比例灌水装置の紹介を行った。

これは、適正な灌水による収量増・省力化に加え、ハウス内環境測定により、作業及び環境測定の自動化・IoT化で、スマート農業推進の契機となる。さらに高温対策としても効果が期待される。

今回の希望参加者は12名であったが、メーカーに多くの質問や導入に前向きな意見もあり、有意義な研究会となった。2月には農業技術センターに同灌水装置について視察し、さらに知見を深める予定である。

農林事務所は、今後とも農業者が取り組みやすい農業技術の普及を推進していく。



【勉強会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■女性農業経営アドバイザー 全体会、臨時総会の開催支援

1月17日、西濃総合庁舎で女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク西濃ブロックの全体会および臨時総会が開催された。

全体会では、次年度の役員候補者について検討された。会員数が減少していく中、今後の会の運営に関して前向きな意見も出され、自主的に新規役員候補が選出された。また、各地域のブロック名称について県連で統一を図るため、臨時総会を実施して規約改正を行った。

西濃ブロックでは、PRチラシの自主作製など新規会員獲得に力を入れており、次年度は新規に1名が加入見込みである。農林事務所では、女性農業経営アドバイザーが様々な知見を広められるよう、活動を支援していく。



【全体会の様子】

■カキ 城山小学校カキの粗皮削り実習

1月24日、海津市立城山小学校の5年生が、南濃町羽沢のほ場で、カキの粗皮削りの授業が行われた。

農林事務所から、粗皮削りを行う目的を説明・実演後、児童が粗皮削りを体験し、児童からの質問に答える等を行った。

農林事務所は、今年度、5年生児童に対して、摘蕾、摘果、収穫、粗皮削りの計4回の授業の支援を行ってきた。こうした体験を通じて、地域の特産品である柿に対し、関心を高めてもらえるよう支援していく。



【実習の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■たまねぎ 養老町内のたまねぎ生育等の現地確認及び支援

1月16日、養老町内たまねぎほ場の現地確認と栽培に関する助言を行うため、JAにしみの養老営農経済センターのTACと巡回を行った。

昨年は、べと病などの病害が多く発生しており、散布する農薬液に展着剤を利用するように生産者へ周知を図った。

また、水田作のため、明渠排水と落水口が接続されていないほ場では、2月末までに排水対策を講じるように助言した。

農林事務所では、たまねぎの収量及び品質向上のため、JA関係機関と連携し、栽培支援を行っていく。



【たまねぎほ場巡回】

■水稲 令和6年産水稲作柄状況の報告

神戸町再生協議会会議（1/9）、神戸町農事改良組合長会議（1/16）、輪之内町農事改良組合長会議（1/30）にて、「令和6年産水稲の作柄について」と題し、農林事務所から報告した。

育苗から収穫までの気象の概要、主要品種の生育、病害虫の発生状況などを説明した。また、次年度に向けて、気候や生育状況に注意を払い、基本管理の徹底と病害虫防除の励行で安定多収を目指すことを助言した。



【輪之内町農事改良
組合長会の様子】

■大豆 採種ほの『生産物審査』を実施

海津市では、市内2法人により大豆の主要品種「フクユタカ」の原種ほ3.7haと一般種子ほ71.6haが設置されている。関係機関と連携し、これまでに開花期と成熟期にほ場審査を実施し、全筆合格となっていた。

昨年12月に採種ほの収穫後の種子を収去し、本年1月から発芽試験などの生産物審査を実施した結果、全量合格した。今後も優良種子確保に向けて支援活動を継続していく。



【発芽試験】

■ごうど下宮GAP組織 りんご清流GAP更新審査に向けた支援

ごうど下宮GAP組織が今年度りんご清流GAPの更新を迎えるため、農林事務所は1月10日と14日に事前確認を実施した。

2023規準のチェックシートに基づき、書類の整備状況や現場の取り組みについてチェックした。概ね達成できている状態だったが、一部の書類に不備があり、本審査までには準備しておくよう助言した。

本審査は3月上旬に実施される予定である。



【事前確認の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 第50回岐阜県いちご共進会地方審査の実施

1月30日と31日、第50回岐阜県いちご共進会の地方審査が実施された。

各部会から推薦のあった15名のほ場について、審査長である農林事務所長ら審査員3名で生育状況や管理技術について確認を行った。2月には、県審査および実物審査が行われ、7月に結果が発表される。

農林事務所では、上位入賞できるよう栽培技術や管理技術について支援を行っていく。



【地方審査の様子】